

施策評価シート

施策番号【3-1】

評価年度	令和6年度	事業実施年度	令和5年度	施策主管次長名	小野田 浩 司
施策番号	3-1	施策名	地域で支え合い、災害に強いまちをつくらう	総合計画掲載頁	100~103
主担当部名	総務部				
関連課名	防災安全課、都市計画課				

1 総合計画の目標指標 PLAN & GOAL (中間値と最終目標値の確認)

取組分野	指標名	R5 中間値	R10 目標値
1 防災・減災	防災訓練への参加率	20%	25%
	指標の定義	コミュニティ地区や公共施設などで実施される防災訓練への参加率	
2 消防	市内での火災出動件数	20件以下	16件以下
	指標の定義	1年間の市内での火災出動件数	
3			
4			
5			

2 成果指標 DO & REPLAN (実績を計上し計画値を再設定)

指標	取組分野	成果指標名	単位	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績
①	1 防災・減災	防災に関するイベントや講座などの開催回数	回	42	13	19	43	42
		対象	市内全市民	指標設定の考え方 市民の防災意識の高揚を図るため、防災に関するイベントや講座などを開催する。				
			把握方法	一般市民や子供たちを対象として開催した防災に関するイベントや講座などの回数				

指標	取組分野	成果指標名	単位	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績
②	2 消防	火災予防に関する街頭啓発、防火パトロールなどの実施回数	回	79	57	56	106	80
		対象	市内全市民	指標設定の考え方 市民の防火意識の高揚を図るため、火災予防に関する街頭啓発、防火パトロールなどを実施する。				
			把握方法	市内で実施した火災予防に関する街頭啓発、防火パトロールなどの回数				

指標	取組分野	成果指標名	単位	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績
③								
		対象		指標設定の考え方				
			把握方法					

指標	取組分野	成果指標名	単位	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績
④								
		対象		指標設定の考え方				
			把握方法					

指標	取組分野	成果指標名	単位	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績
⑤								
		対象		指標設定の考え方				
			把握方法					

3 施策の評価 ANALYSE & CHECK (分析・評価)

施策の分析 (現状の確認と近隣調査)		
施策の現状	<ul style="list-style-type: none"> 防災では、以前から地域住民による自主防災組織が、安否確認、避難訓練等を組織的に実施してきた。最近では、いくつかの自主防災会が集まりコミュニティ単位での訓練を実施しているが、開催時期が暑い時期であり、市民が参加しにくい状況も発生してきている。 防火については、定期的に消防団等による防火啓発に取り組んでおり、火災発生件数はその年により流動的ではあるが減少傾向にある。 	
成果向上に向けての市民と行政の役割分担	市民	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練や防災講座などに参加し、自分の命は自分で守る「自助」、顔の見える近くの人で助け合う「近助」、地域で助け合う「共助」の意識を高め、地域の防災力を高める。 自発的な火災予防に取り組み、防火意識を高める。
	行政	<ul style="list-style-type: none"> 市民の防災意識の向上、自主防災会組織への支援など、地域防災力が向上するための施策を実施する。 避難所の指定、防災行政無線などの施設整備、防災備蓄品の計画的な配置をする。 合同訓練の際の会場など、市民が参加しやすい環境整備を進める。 常備消防である尾三消防組合を近隣4市町と協力し組織する。
近隣市町との比較	<ul style="list-style-type: none"> 人口規模や地域性もあり比較できないが、近隣市町において、防災訓練など住民の防災意識の向上を図る取組はそれぞれ実施している。 消防団員は他市町より人口に対する割合が大きく、年齢も若いため効果的な活動が展開できる。 	

施策の評価 (活動の振り返りと課題の明確化)	
令和4年度以前の活動	<ul style="list-style-type: none"> 防災では、各行政区単位での安否確認訓練や、市職員と自主防災会合同による図上訓練を行った。 市内消防団13分団に対し、チェンソー及び防護服等を配備するとともにチェンソー取扱い訓練を行った。 市消防団員の処遇改善のため、報酬等の見直しを行った。 女性消防団による防災ソング作成を行った。 災害時における備蓄品及び資機材の拠点となるみよし市拠点防災備蓄倉庫を建設した。
令和5年度の活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 防災では、安否確認訓練や防災訓練、市職員と自主防災会合同による図上訓練、避難所開設訓練を行った。 各小学校での防災出前講座を行った。 防火啓発活動として消防団による火災予防パトロールを行った。 市消防団員の加入促進のため、SNS等を活用した情報発信を行った。 消防団6分団(三好下、西一色、福田、新屋、三好上、動生)に対し、ゴムボート取扱い訓練を行った。 マイ・タイムラインを作成し、市内全戸に配布した。
積み残し課題等	<ul style="list-style-type: none"> 自主防災会等と連携した、より実践的な避難所開設・運営訓練を実施する必要がある。 みよし市拠点防災備蓄倉庫を活用した効率的な物資の管理や、災害時の迅速な物資供給の訓練を進める必要がある。 能登半島地震の状況を鑑み、トイレ対策をはじめ、市民の被災に備えた自助の意識を改めて啓発するとともに、近助、共助の意識をより高めていく必要がある。 消防団員数が減少傾向にあり、加入を促進する施策が必要である。 操法をはじめ、消防訓練のあり方を見直していく必要がある。

4 活動計画 ACTION & PLAN (目標を達成するために起こす行動)

令和6年度以降の施策目標達成に向けての取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 防災・減災に向けた自助、近助、共助の推進を強化するため、自主防災会をはじめとする市民の防災意識を高める。 消防については、引き続き地道な防火啓発活動を続け、消防団、尾三消防本部と行政が連携し、一体となって活動していく。 地域防災・消防の担い手の消防団員の加入促進を行っていく。 市民の火災予防意識の向上を図る機会を増やしていく。 様々なシチュエーションを想定した災害対応訓練等を実施していく。 西一色雨水ポンプ場の整備を推進していく。
施策目標達成に向けての令和6年度の活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 防災に関する講座等を引き続き実施していく。 トイレトレーラーを導入し、各イベントで展示するとともに、市民各自での被災時のトイレ対策を啓発していく。 各イベントで、市民自身による備蓄など、自助意識を高める啓発を行う。 自主防災会等と連携した実践的な避難所開設・運営訓練を行う。 拠点防災備蓄倉庫において、支援物資の受入・備蓄物資の搬出の訓練を行う。 春夏秋の火災予防パトロール、年末夜警等、消防団による防火啓発活動を実施する。 消防団員確保のためのSNSによる情報発信による消防団活動の認知度及び好感度の向上を図る。 こども用消防団服を購入し、イベント等で使用することで、幅広く消防団の認知度及び好感度の向上を図る。 安全安心大作戦を開催し、尾三消防組合等と連携して市民の防火防災意識の向上を図る。 火災予防期間中において、公用車による啓発広報を行う。